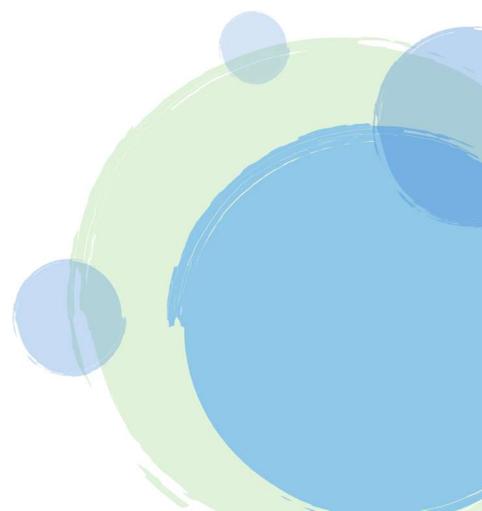


令和4年6月

令和3年度不妊治療と仕事の両立に関するアンケート 調査結果報告書



三重県子ども・福祉部子育て支援課



(1) 目的

不妊治療と仕事の両立支援に向けて、現在治療を受けている方々の実態を把握するとともに両立に向けての現状や課題を明確化し、今後の取組につなげる。

(2) 調査対象

- ・ 特定不妊治療費助成申請のために市町窓口に来所した方
- ・ 令和3年度特定不妊治療費助成承認決定者

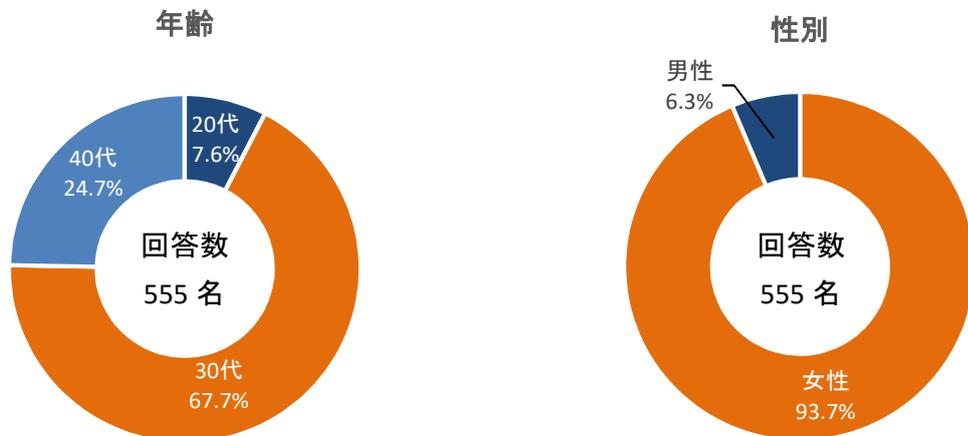
(3) 調査期間

令和4年1月上旬から3月31日(木)まで

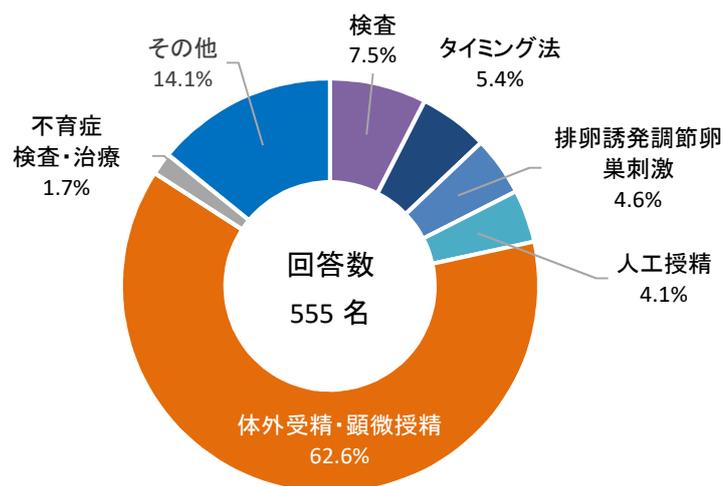
(4) 調査方法

三重県電子申請・届出システムによるアンケート調査

(5) アンケート回答件数 555件



現在どのような治療をしていますか



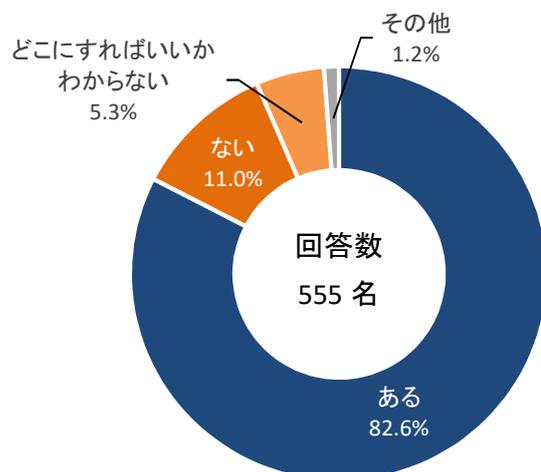
回答いただいた方のほとんどが女性。年齢は30代が67.7%と最も多く、次いで40代の24.7%となった。治療をしている方の多くは、企業を中心として働くことの多い世代であることが分かる。

また、本調査の対象は特定不妊治療費助成申請のために市町窓口に来所した方や、特定不妊治療費助成承認決定者であるため、回答者の多くが体外受精や顕微授精のステップに進んでいる。その他の回答には、治療を終了している、治療を経て現在妊娠中、という声も多く寄せられた。

相談先について

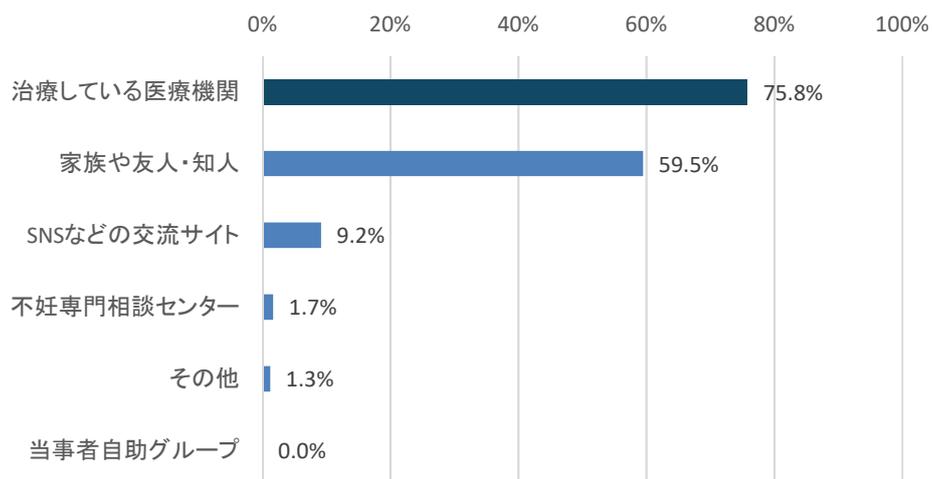
約 16%の方が、「相談できるところがない」または「どこに相談すればいいかわからない」（参考：令和2年度は約 23%）

不妊治療について相談できる場所がありますか



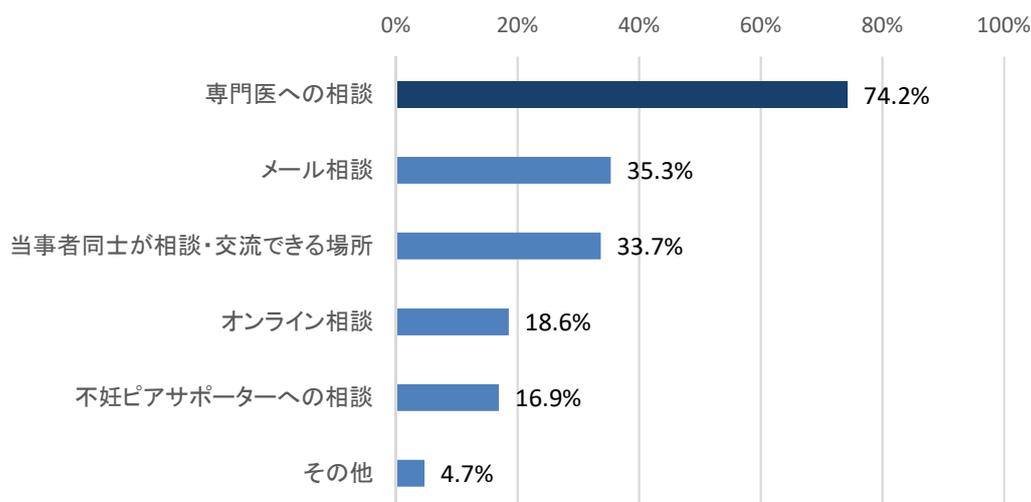
大多数は、相談先として医療機関を利用している

不妊治療についての相談先（複数回答可）



回答者の大多数は、相談先として医療機関を選択していた。県の不妊専門相談センターを利用しているのはわずか 1.7%（令和2年度は 0.8%）であり、より多くの方に利用していただくために引き続き周知方法を工夫する必要がある。

どのような相談先・方法があればよいと思いますか(複数回答可)



希望する相談先については、専門医への相談を求める声が74.2%と最も多かった。また、当事者同士が相談・交流できる場所、不妊ピアサポーターへの相談など、同じ悩みや不安を共有できる人への相談を求める声も多くみられたことから、不妊ピアサポーターを交えた当事者交流会等の取組が必要だと考えられる。

相談先について～当事者の声～

通院する医療機関の他にも相談先を求める声や、経験者によるサポートが必要であるとする声が見られた。また、中には個人的な悩みを相談したいと思わない、何を相談すればいいのかわからないと考える方もいることがわかった。

かかりつけ医とは別で相談できる医療機関があれば嬉しい。

LINE 相談

地域の保健センターの担当の方が、自分も体外受精の経験があるとのことから親身に話を聞いてくださり、大変お世話になりました。

医療的な相談は専門医の方でしてくれますが、例えば妊娠しやすくするための生活習慣とか食べ物とか気をつけることを聞けるのであれば。

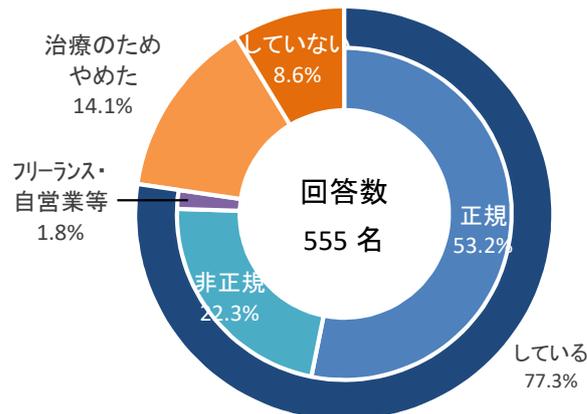
同じ市に何か所か不妊専門医があり、セカンドオピニオンが受けられる体制がほしい。

不妊治療している人ならではの不安や心配、ストレスがあるので寄り添ってもらえなければ意味がありません。

あっても何を相談していいのかわからない。
結局、年齢やホルモンバランス、卵巣機能等、相談してもどうにもならないことだと思っている。

約 14%の方が不妊治療のために仕事をやめており、さらに働き方を変えた人も（参考：令和2年度は約9%）

あなたは就労していますか



14.1%の方が、「治療に専念するために辞めた」と回答した。また、現在働いている方でも「正社員からパートに変えた」、「パートの日数を減らした」、「本当はフルタイムで働きたい」といった声もあり、自分の希望どおりに働くことができていない方が多くいることがわかった。

当事者だけでなく、貴重な人材を失うといった点で、企業にとっても深刻な問題であるといえる。

退職したことについて～当事者の声～

設問 なぜ、治療に専念するため辞めたのですか？（回答数:76名）

治療のために急な休みを取ることや遅刻・早退することに対して、上司や同僚に後ろめたい気持ちや申し訳なさを感じ、退職に至ったという方が多くみられた。

決まった時間に注射を打たなければならないことや、採卵日が指定されることから、急な休みや遅刻・早退は避けられないものであるが、そういった不妊治療に関する知識や理解が職場に浸透していないことが背景にあると考えられる。中には、上司から心ない言葉をかけられたという方もいた。

治療のために有給、時間休をとる事が多くなるため、最終的には、上司に治療に専念したらと、遠回しに退職を進められた。

周りに迷惑をかけて、自分自身にもストレスになり、自分の体調により急に休まないといけなくなるから。

不妊治療している人が他にいなかったもので、噂や人の目もあり、いづらくなった。

上司はなんでも言っていると聞いていたが実際に仕事を休んで迷惑をかけるのはその他の人なので、忙しい時に休んだり早退するのが申し訳なかった。

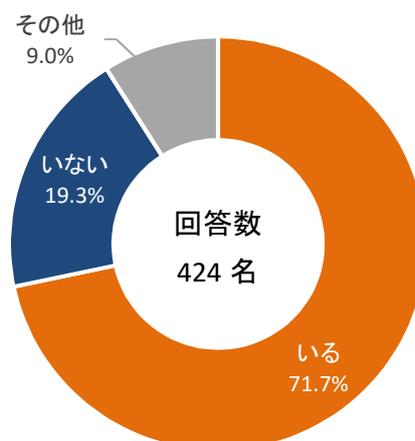
職場の理解がなかったわけではなく、個人的に周りに非常に申し訳ないという思いが強かった。

休みのため、仕事を代わってもらう人にも迷惑をかけて人間関係に悩むようになったから。

職場の理解について

現在就労中の方の約72%は、不妊治療をしていることを職場の人に話している（参考：令和2年度は約68%）

治療していることを職場の人に話していますか

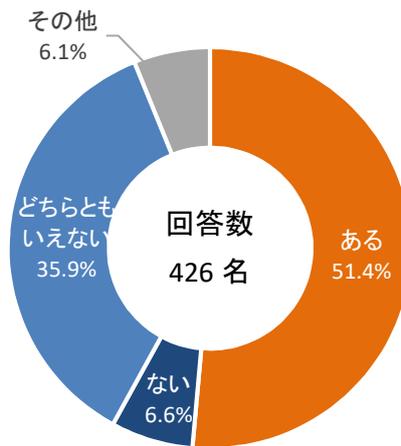


職場の人に話している方が、話していない方を上回っている。ただし、その他に「上司にだけ話している」、「本当に仲が良い人にだけ話している」、「できる限り他の人には知られたくない」という声があったことから、話していると答えた

71.7%の中にも、一部の上司・同僚にしか話していないという方が多くいる可能性が考えられる。

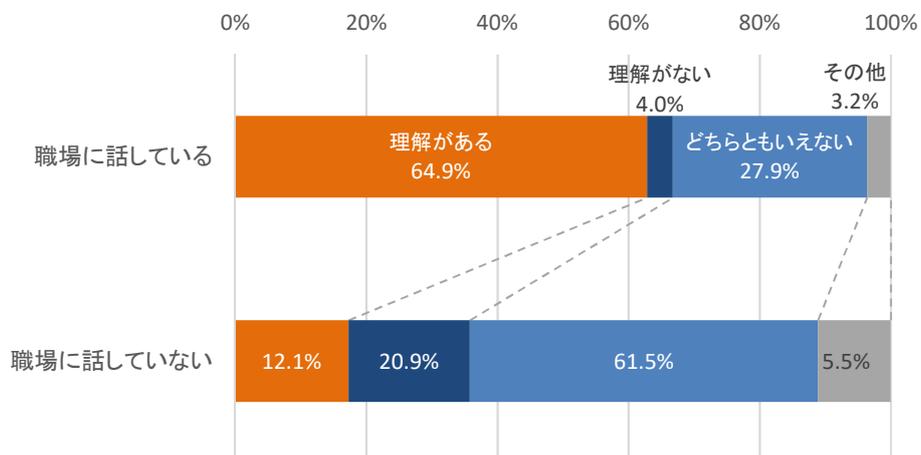
現在の職場に不妊治療への理解があると感じている方は約半数（参考：令和2年度は49.8%）

あなたの職場は、治療について理解があると感じますか



職場に「理解がある」と感じている人は51.4%と、前回のアンケートからほぼ横ばい。また、「理解がない」の6.6%に比べ、「どちらともいえない」が35.9%と多くなっている。その他に「自分から言えないので理解があるかわからない」、「治療について話したいと思わない」という声があり、職場に話していない人の多くが、理解を示してもらえないかわからないため、このように答えていると考えられる。

あなたの職場は、治療について理解があると感じますか



不妊治療について、「職場の人に話している人」と「話していない人」で比べると、理解があると感じているかどうかには大きな差があった。前回までのアンケートでも同様の結果であり、やはり職場に話しやすい（話している）かどうかは、理解があると感じられるかどうかには直結していると考えられる。

ただし、「理解は示してくれているが、知識がない」、「個人差が大きい」との回答もあったため、不妊治療をしていることを話しやすい環境を整備するとともに、管理職等の不妊治療に関する正しい理解をより一層深めることが重要である。

職場の理解について～当事者の声～

（１）職場の理解を求める声

多くの方が職場の理解を求める意見を記入していた。「子どもが欲しくてもできない人が多い」、「言えないだけで本当はたくさんいるはず」など、不妊治療は誰にでも起こりうる、ごく一般的なことであるという理解を求める意見もみられた。

仕事が大事だということは重々理解していますが、女性の身体やホルモン、不妊治療においてタイミングが大事なのだということもわかってもらいたいと思っています。

不妊治療の休暇制度はもちろん大切だが、それ以上にその制度を活用できる体制や周囲の理解が必要だと思う。

シフト制の接客業は特に両立が難しいので、そういう企業こそ不妊治療に関しての理解が必要だと思います。

社員全体への不妊治療の現状の周知と意識改革が大切だと思います。

少子化を身近に感じるようになってきたが、やはり、子供が欲しくてもできない人が多いことを理解してほしい。

どれだけの人が不妊治療しているか理解してほしい。言えないだけで本当はたくさんいるはず。

（２）職場の理解を得るのが難しいとする意見

不妊治療の詳しい内容については理解していない人も多く、休暇を取得する際に治療の説明をしても嫌な顔をされた、理解してもらえなかったという声がみられた。

職場の信頼できる人に不妊治療を打ち明けても、どの程度休むのかどういう治療なのかを理解してもらうのは難しい。

夜勤などの交代勤務があり、その調整に苦難してます。不妊治療について知らない方々が殆どなので、なかなか理解してもらえないです。

勤務変更はしてもらえるが、治療について上司の理解が乏しく嫌な顔をされる事がある。

治療をしていると上司に伝え
てあるのですが、小馬鹿にし
たような返答の仕方で、毎
回、休みを報告するのが苦痛
で仕方ない。

事情があつて治療しているに
も関わらず、若いのになぜ治
療が必要なのかと上司に理解
されないこともあつた。

面接で「それはどこが悪いん
ですか?」「病気で休まれる
のは困ります」と同じ女性で
ある面接官から言われたとき
には、経験したことがない人
には理解されないのだと感じ
た。

(3) 職場の理解はあっても両立は難しいとする意見

職場の理解はあっても、やはり休暇を取得する際には申し訳なさやうしろめたさを感じるという声がみられた。職場に話すことができても、気兼ねなく休暇等が取得できるような人員配置や業務分担といった体制づくりが整っていないことが考えられる。

職場の理解はある方だと思うが、急に休ませて
もらうのが本当に心苦しい。いつまで続くかわ
からない治療に金銭的負担や心身の負担が大き
い。治療のために仕事を辞める事も考えてい
る。

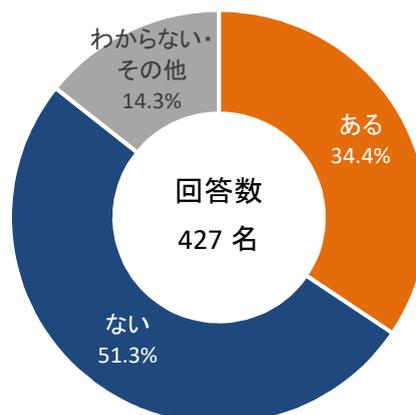
職場の人からは遠慮なく休んで良いよと言わ
れるが実際休み辛い。

ある程度の理解があるが、やはり急な休みな
どは取りづらい。

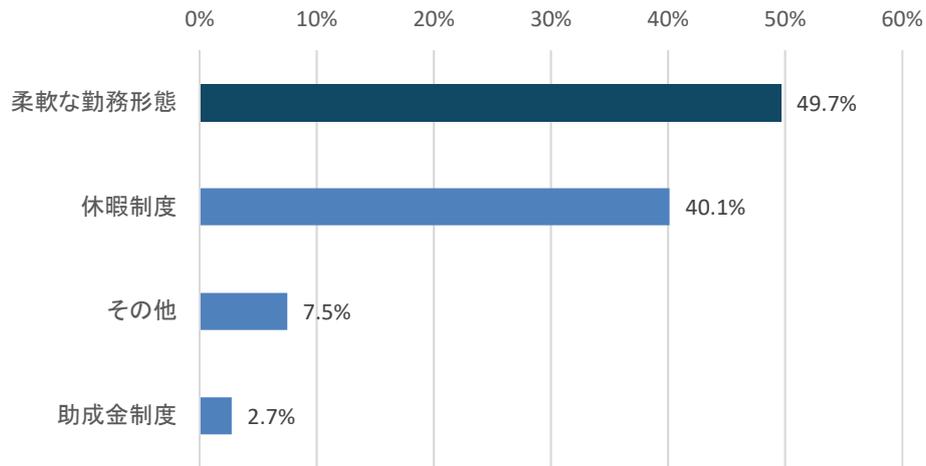
職場のサポート制度について

現在就労している方のうち、職場に不妊治療をサポートする制度があるのは約34%（参考：令和2年度は約25%）

職場に不妊治療をサポートする制度はありますか



職場のサポート制度が「ある」と答えた方の内訳

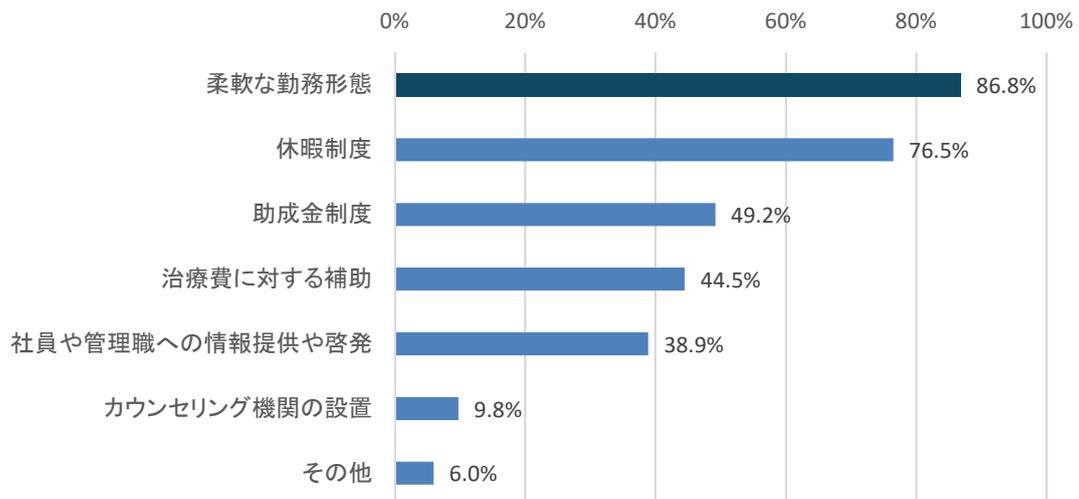


「ある」と答えた方の職場のサポート制度のうち、最も多いのが「柔軟な勤務形態」で49.7%、次に多いのが「休暇制度」で40.1%、「助成金制度」は最も少なく2.7%だった。

また、休暇制度はあるが、休んだ分の仕事が同僚の負担になるため、なかなか取得しづらいという声もあった。

職場に求めるサポート制度の中で最も意見が多いのが、「柔軟な勤務形態」

職場においてどのようなサポートが必要だと思いますか(複数回答可)



柔軟な勤務形態や休暇制度を求める声が多く、それらを導入することのできる適切な人員配置等を求める声も、その他の意見としてあげられた。

また、不妊治療に限定せず、あらゆる人が自分の希望する働き方を実現できる職場環境を望む声もあった。

サポート制度について～当事者の声～

(1) 柔軟な勤務形態、休暇制度を求める声

治療に合わせて柔軟に取得できる半日単位での休暇制度や休職制度等を求める声がみられた。その他、気兼ねなく休暇が取れるような人員配置、業務分担が必要であるとの声もみられた。

半日有休制度があると平日昼間でも通院しやすくなると思う。

休みを取っても大丈夫なように、仕事の責任の分散や共有が必要。

普通の通院ということにして、詳しく聞かれずにフレックス制度を使ったり、休んだりしたい。

休暇を取りやすい人的配置。

近年言葉のでてきているプレ育児短期勤務の導入や勤務日数減量システムの導入。

休暇制度より、休職制度を認めてほしい。

結婚、介護、病気などでの退職後8年以内はキャリア復帰できる体制がありましたが、不妊治療は対象外とされていた。

(2) 社員や管理職への情報提供や啓発活動を求める声

制度の導入以前に、上司・同僚の理解が不足していることから、社員研修など職場への理解を深める取組を求める声も多くみられた。

不妊治療や産休・育休に対して理解をしてもらうためのセミナーや啓発活動を社員だけでなく経営者に対してもしてもらえるといいと思います。

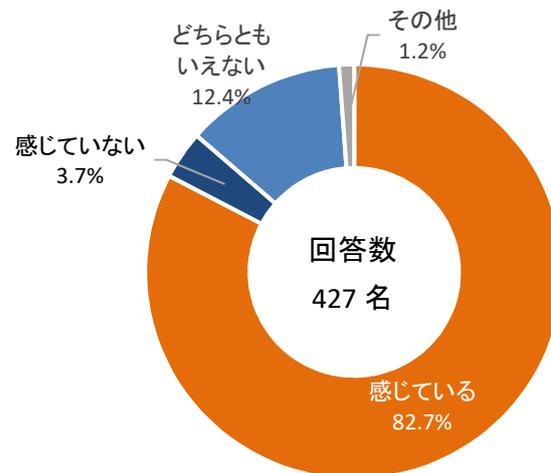
急な休みや遅刻早退しても、理解できるような社員教育。

自分が経験したことがないと、不妊治療の大変さ（金銭、肉体、精神的）はわからないと思いますので、もっと理解がある職場環境の改善を求めます。

不妊治療と仕事の両立の難しさについて

仕事を続けている方の中でも、約 83%は不妊治療と仕事の両立を難しいと感じている（参考：令和2年度は約 75%）

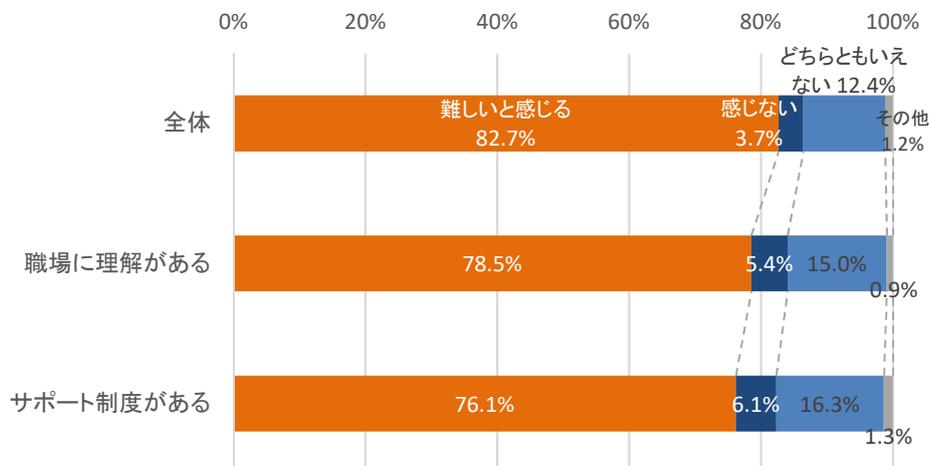
治療と仕事の両立を難しいと感じていますか



80%以上の方が、両立が難しいと感じている。自由記載欄にも、「スケジュールの調整が難しい」、「同僚に迷惑をかけている」などの声が多くみられた。

職場の理解やサポート制度があれば、両立を難しいと感じる人の割合は低くなる

治療と仕事の両立を難しいと感じていますか



職場の理解があると感じている人や、会社にサポート制度がある方については、両立が難しいと感じる割合はやや低くなっており、両立のためには、職場の理解やサポート制度が必要であることが分かる。

両立の難しさについて～当事者の声～

両立は難しいとする声が多い中、両立できているという方もいるが、「両立しやすい職種だから」、「今の部署だから」という意見がみられ、多くの方が、誰もが治療と仕事を両立できるわけではないと考えていることがわかる。

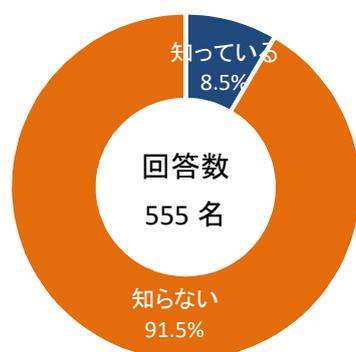
とても（難しいと）感じる。
周りの目も気になるし、生理周期や受精のタイミングなどデリケートな問題を周りに晒すことになる。

私の職種は両立出来ると思いますが、その他の方は難しいのではと思います。

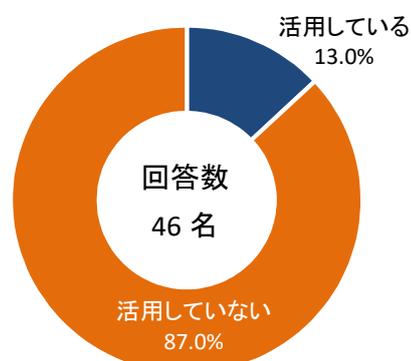
たまたま治療が始まる前に交替勤務のない部署に異動になり、休みも取りやすくなった。あのまま交替勤務のある部署にいたら仕事続けられなかったと思う。

仕事を続けている方の中で、不妊治療連絡カードを知っている人は約9%、そのうち活用している人は約13%（参考：令和2年度はそれぞれ約7%、約6%）

「不妊治療連絡カード」を知っていますか



「不妊治療連絡カード」を活用していますか



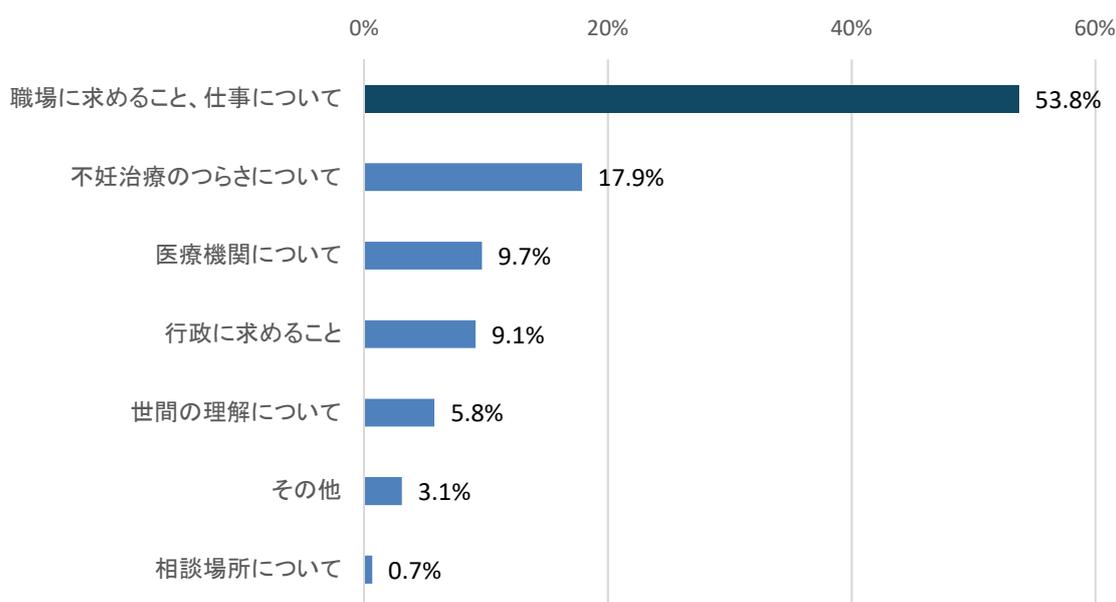
不妊治療連絡カードを知っているという方は8.5%と非常に少なく、そのうち活用しているという方も少なかった。不妊治療に対する理解や職場環境がある程度整っていないと、このようなツールは十分に活用できないと考えられる。

自由記載欄のその他の意見

自由記載欄には約 69%の方が回答。不妊治療中の方の切実な意見が綴られていた（参考：令和2年度は約 68%の方が回答）

設問 治療と仕事の両立やその他あなた自身が感じていることなどご自由にお書きください

主な意見（自由記載を分類） 回答数：383名



主な意見

（1）職場に求めること、仕事について

これまでの項目で紹介した意見以外にも、仕事との両立へのストレスや難しさを訴える意見が多くみられた。

治療のために急に休みを取る必要があるのですが、仕事のスケジュール管理することが難しい。

通院等で休暇を使わせてもらえるが、職場に迷惑がかかるのと、事情を知らない人からの目が厳しいので、心苦しい。

職場の理解があってこそ不妊治療を継続することができた。やはり、職場の理解が得られないと時間的にも精神的にも難しいと感じた。

夫婦どちらの職場でも理解が必要となるが、難しいのが現状。毎日通院となる周期もあるので、仕事と治療の両立は身体的にも精神的にもかなりつらかった。

当事者間でも退職が避けられない事が普通になっているようですが、キャリアと子供のどちらを選択するのか、比較する対象ではないものを選ぶ事はできません。

女性だけでなく、男性も通院してもらおう場合もあるので、男女共に休める環境にしてほしい。

(1) 不妊治療のつらさについて

仕事との両立に関する意見に次いで、不妊治療における精神的・身体的・金銭的負担を訴える声が多くみられた。

お金がかかりすぎる。身体的、精神的にも女性の負担が大きい。

お金の負担など、妻が専業主婦なので、自分が倒れてはいけない、と気持ちが辛くなることがあります。

特に金銭面では、不妊治療の他に体調を整えるための漢方やリンパマッサージ、整体など行っていたため、月に何十万もかかっていた。

貯金を切り崩す生活に、いつまで続くのかって不安になることもある。

不妊治療をしている者は、孤独です。さらに、私のように子どもを諦め、不妊治療を終了した者は、心を保つことが大変です。

不妊治療は終わりが見えないし、治療を続けても本当にできるかもわからない中で仕事しながらお金のことも考えて、憂鬱になることしかありません。

(2) 医療機関について

地域によっては治療を受けられる医療機関が少ない（無い）ことから、待ち時間や通院時間の負担を訴える意見がみられた。また、仕事との両立の観点から、夜間診療等を求める意見もみられた。

地方には不妊治療を受けられる病院がなく、遠方になる為、身体的にも精神的にも負担が大きいです。

他県の友人と比較して、三重県は不妊治療ができる病院が圧倒的に少ないと思います。

病院の診察時間が朝早いとか夜遅くまで開いていれば、もっと治療に通いやすい。

(3) その他

その他の意見として、4月から保険適用になることへの意見や世間の理解を求める声、第2子に関する悩み等が寄せられた。また、治療における夫婦の役割に悩む男性からの声もみられた。

保険適用となるが、ちょうど受けられない年齢。かれこれ11年間受けてきたのに過ぎたものには何も無いことが辛い。

保険適用になれば、これを機に治療をする人が増えるのは良い事だとは思いますが、今以上病院が沢山の人で混んで待ち時間が増えると困る。

今現在、当事者ではない人も、将来自分の子どもや孫が当事者になる可能性もある。不妊治療について堂々と話せたり、周りや職場が配慮し合える社会にしていきたい。

自分(夫)は結局妻にどうすれば、何をしてあげれば良かったのかが分からなかった。

子どもを授かることが出来なかった不妊治療終了者への支援も充実すると有難いと思います。

2人目の治療は病院に行く際に子どもを預けておく場所が必要となるため、夫に休んでもらっていたが、気軽に預けられる場所がほしい。

かなり妻の精神的負担になっているのを感じている。

(参考) 新型コロナウイルス感染症に関する意見

設問 新型コロナウイルス感染症の収束がみえない中、不妊治療に対してどのようなことを感じますか。(回答数:289名)

新型コロナウイルス感染症に関する設問では、感染リスクと自身の年齢から、治療を続けるかどうか葛藤する意見やワクチン接種に関する意見、金銭的負担を訴える意見が多くみられた。また、不安を感じる意見が多い中、通院がしやすくなったとメリットを感じている意見もみられた。

不妊治療を控えた方がいいのか悩んだが、感染には充分気を付けて行うことにした。治療中の感染も怖い、妊娠中の感染も怖い。

通院による感染リスクはあるが、不妊治療にはタイムリミットがあるので、感染対策を行いながら治療を優先していきたい。

ワクチン接種が不妊治療に及ぼす影響がどの程度になるのかが不安だった。

ワクチンを打っても大丈夫なのか、不安でいっぱいです。

コロナで収入減少する上、不妊治療の費用がかさんでくるのは厳しい。通院しても待ち時間が長く長時間病院に滞在するのが不安。

コロナ対策で病院に行くのが自分だけで、付き添いを連れて行けないのが辛い。
治療が上手くいかなかったときに病院で辛い話を一人で聞くことが心細い。

残業や出張がなくなり、この時期だからこそ、不妊治療が出来たと感じている。

(参考) 不育症に関する意見

設問 不育症に悩む方への支援として、どのようなものがあればよいと思いますか。(回答数:78名)

不育症に関する設問では、知名度の低さ、情報量の少なさを訴える声が多くみられた。まずは不妊症との違い等について、正しい知識の普及が必要と考えられる。

不育症という言葉をもっとポピュラーにしてほしい。専門の病院が少ない。

不育症についてあまり知らない。

不育症対策を実施している病院が少ないので、せめてその情報発信をたくさんしてほしい。

身体的負担とともに、初期の流産と言えど失う辛さ、精神的負担も大きいと思います。必要な方がグリーフケアなど受けられるといいと思います。

私は受けた事がないですが、検査がとても高いと聞いたことがあるので、やはり検査への補助が必要だと思います。

死産した人の心のケアが必要だとすごく感じた。
無事赤ちゃんが産まれた人には手厚いケアがあるのに、死産した人には何もない。

そもそも不育症に関する情報が少ない。
対応可能な医療機関についての情報がほしい。